

新たなる感動を与えてくれる ロータリー希望の風奨学金

ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会委員長 地葉 新司 (潟上RC)

あの震災から6回目の秋を迎えることとなります。東日本大震災を思い浮かべると真っ先に津波の被害が頭をよぎりますが、東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射能被害も忘れることはできません。いまだに故郷に戻れぬ方々もおられます。被災地では地元の皆さまの努力とともに、復興に向けてさまざまな支援活動が続いています。

日本列島ではその後も、地震や大雨による洪水、土砂崩れなどの自然災害が後を絶ちません。被災者となられた皆さまに、また残されたご家族の方々に、どのような支援をするのか、否、どのような支援が求められているのか、改めて考えさせられます。

東日本大震災後に、当時のガバナー会はガバナー会規約に基づく東日本大震災支援検討委員会を立ち上げました。この委員会の委員長が故・織田吉郎パストガバナー(第2790地区・銚子ロータリークラブ/R C)です。その時の資料の一部をご紹介します(以下、引用)。

1. 関東大震災の支援活動に学ぶ

委員会は過去の歴史に問いかけ、関東大震災、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震発生時にロータリーの先輩方は義援金をどのように使ったのかを調べました。この中で、後の2震災の支援に色濃く影響を及ぼしていると思われるのは、関東大震災時の東京RCの対応でした。

ロータリークラブ連合会(後の国際ロータリー)や世界17か国503のクラブから送られてきた8万9,000ドル(今のお金に換算すると3億円という人も、米価換算ではその10倍という人もいます)の用途は大別すると、以下のようになっています。

- (1) 東京・横浜の焼失小学校188校に教材寄贈
- (2) 孤児院を建設寄贈
- (3) 産科医療医院の再建援助
- (4) 殉職警察官家族の援助

これらは一貫して次世代を担う子どもたちの救援に向けられています。生活用品の提供ではなく、人を育てる環境づくりに視点を定め、心のこもった支援を実施しているのです。創立後3年しかたっていない東京RCが、米山梅吉氏が中心となってロータリアンの相互扶助といった視点ではなく、ロータリーらしい立派なプログラ

ムを展開されたことに、明治育ちのロータリアンの高い品格を見せていただきたいと思います。

この支援実績は阪神・淡路大震災および新潟県中越地震の際の第2680地区、第2560地区の対応にも受け継がれていると思われました。共に次代を担う青少年の教育環境改善に義援金を使っています。私たちも、このロータリーの伝統を大切にしていきたいと考えたのです。

(『ロータリーの友』2012年8月号横組みP 23より)

2. ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会の 発足と支援の状況

その後、さまざまな動きがありましたが、現在のロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会につながるものとなりました。協議会では、東日本大震災の被災遺児に対する教育支援プログラム「ロータリー希望の風奨学金」を立ち上げました。改めてこの奨学金についてご紹介します。

「ロータリー希望の風奨学金」の概要

奨学生の条件: 東日本大震災で両親もしくは片親を失った「遺児」で大学(短大を含む)、専門学校に学ぶ者

奨学金の給付: 入学から卒業まで毎月5万円を継続して給付し、返還を求めない

申請から登録まで: ①被災各県高等学校・遺児家族・本人から、在籍高等学校の推薦とともに申請を行う。資格審査(書類確認)の上、遺児には「奨学給付金登録者名簿登録済みのお知らせ」と「進学後に必要な手続き」を、推薦学校宛てには「給付決定の通知」と「推薦に対するお礼状」を送付する。②申請者が既に大学や専門学校に入学している場合は、被災遺児であることが確認できる書類と在学先の推薦状を添えて申請を行う。資格審査の上、前項と同様の手続きとする。

奨学金給付開始: 大学・専門学校入学と同時に、在学証明書を当協議会に送付してもらい、入学を確認後、奨学金の給付を開始する。

後のフォロー: 奨学生が進級するごとに在学証明書を送付してもらう。留年や停学、退学の報告を受けた時、または在学証明が更新できないときは給付を停止する。

2015年7月30日に開催した2014-15年度通常委員総会では、支援金をお寄せくださる地区が25地区

を超えました。発足当時の10地区を「賛同地区」、それ以外を「賛同地区以外」と区別せずに「支援地区」とすることにしました。しかし、支援地区の中には、地区

としての支援ではなく、地区内の1クラブあるいは1個人による支援もあり、表現がそぐわないと思われますが、さらなる広がりが期待できます（資料1）。

(資料1) 「ロータリー希望の風奨学金」への支援参加地区・団体等の年度別変動

(単位：円)

	開始時資金	支援金						開始時資金 + 支援金
		2011.12～ 2012.03	2012.04～ 2012.06	2012.07～ 2013.06	2013.07～ 2014.06	2014.07～ 2015.06	2015.07～ 2016.06	合計
地区および団体・個人	2011.11							
第2580地区 東京・沖縄	97,039,926	12,941,451	2,596,371	4,934,608	12,081,171	11,363,863	8,190,644	149,148,034
第2710地区 広島・山口	43,418,057			1,730,000	1,600,000	300,000	4,721,131	51,769,188
第2790地区 千葉	40,599,414	7,035,000	1,210,133	2,787,605	1,717,489	7,989,152	4,435,822	65,774,615
第2760地区 愛知	29,849,696			1,394,226	300,000	4,382,098	5,065,929	40,991,949
第2650地区 福井・滋賀・京都・奈良	23,702,867			30,000,000	46,503,219	33,276,209	35,530,977	169,013,272
第2590地区 神奈川	23,475,539		220,000	329,000	300,000	3,273,000	1,533,648	29,131,187
第2570地区 埼玉西北	17,651,920	1,120,000	243,000	5,378,595	8,554,968	8,612,357	6,193,501	47,754,341
第2630地区 岐阜・三重	17,062,612				197,013		1,400,000	18,659,625
第2720地区 大分・熊本	8,612,417	1,000,000	10,344,491	7,643,926	1,045,701	837,381	770,096	30,254,012
第2540地区 秋田	3,014,581		227,610	851,819	737,593	2,168,746	2,231,638	9,231,987
第3340地区 タイ	1,765,192							1,765,192
日台ロータリー 親善会議		123,431,330		1,458,587	450,000			125,339,917
第2750地区 東京・北マリアナ諸 島・グアム・ミク ロネシア・パラオ			4,100,000	8,046,000	991,906	417,500	1,856,327	15,411,733
第2820地区 茨城			3,609,160	825,022	247,424	716,376	654,222	6,052,204
第2620地区 山梨・静岡				3,147,271	506,000			3,653,271
第2670地区 香川・愛媛・徳島・高 知				1,300,000				1,300,000
第2610地区 富山・石川				1,000,000		623,285	148,166	1,771,451
第2780地区 神奈川				950,000				950,000
第9710地区 オーストラリア				700,000				700,000
第2830地区 青森				100,000		120,000		220,000
第2550地区 栃木				100,000	1,354,506	230,000	200,000	1,884,506
第2640地区 大阪南部・和歌山					2,000,000			2,000,000
第2690地区 岡山・鳥取・島根					313,000		350,801	663,801
第2530地区 福島					112,000	112,000	12,000	236,000
アメリカ・個人・ 台湾・団体					25,000	1,200,161	5,271,777	6,496,938
第2740地区 佐賀・長崎						66,400	9,460	75,860
第2800地区 山形							1,232,330	1,232,330
第2770地区 埼玉南東							1,000,000	1,000,000
第2510地区 北海道西部							1,000,000	1,000,000
計	306,192,221	145,527,781	22,550,765	72,676,659	79,036,990	75,688,528	81,808,469	783,481,413

(資料2) 奨学金給付者の年次推移

期	期間	奨学生数
1	2011.12 - 2012.03	35
2	2012.04 - 2012.06	80
3	2012.07 - 2013.06	143
4	2013.07 - 2014.06	161
5	2014.07 - 2015.06	172
6	2015.07 - 2016.06	176

注) 各期の期間の違いは、1期目は期末を3月末としましたが、2期目以降はロータリー年度(7月1日～6月30日。2期は4～6月)に変更されています。

注) 各期ごとの奨学生数は、その期間に給付した実数です。プログラム開始以来の給付者の総数は269人です。前年度が228人でしたので、前年比118%になります。

注) 2016年7月1日現在の給付者の総数は128人です。

(資料3) 奨学生の状況(被災市町村別)

2016年6月30日時点

	市・町・村	人数	卒業生	現奨学生	その他
岩手県	岩泉町	1		1	
	大槌町	14	6	7	1
	大船渡市	11	5	6	
	釜石市	13	7	6	
	北上市	2	1	1	
	田野畑村	2		2	
	宮古市	17	9	7	1
	盛岡市	1	1		
	山田町	16	9	7	
	陸前高田市	34	13	20	1
県計	111	51	57	3	
宮城県	石巻市	45	16	25	4
	岩沼市	5	2	3	
	大崎市	1		1	
	女川町	10	5	5	
	気仙沼市	29	10	17	2
	塩釜市	1	1		
	仙台市	16	5	11	
	多賀城市	2		2	
	富谷町	1		1	
	登米市	2	1	1	
	名取市	6	2	4	
	東松島市	13	4	9	
	松島町	1	1		
	南三陸町	13	5	8	
	山元町	3	1	2	
亘理町	2	1	1		
県計	150	54	90	6	
福島県	いわき市	1			1
	鏡石町	1		1	
	新地町	1	1		
	相馬市	3	1	2	
	南相馬市	2	1	1	
県計	8	3	4	1	
合計		269	108	151	10

注) 「その他」は留年、休学、退学した者、あるいは在学証明書の提出がない者

3. 給付奨学生の状況

2016年7月1日現在、128人の奨学生に奨学金を給付しておりますが、プログラム開始以来の総数では269人となります(資料2)。給付奨学生は県別には数に開きが見られますが、被災市町村別の奨学生の状況は(資料3)のようになります。

支援される方々からは「奨学生の生の声を聞きたい」とのご要望が寄せられますが、奨学生に対するアンケートを見ると、まだまだ気持ちの上で難しいものがあるように感じられます。しかし、2015-16年度に寄せられた奨学生とご家族の声を、いくつかご紹介します。

大学4年(男子):

(前略) 日々、就職活動と学校を両立し頑張っているところです。ロータリー希望の風さんからの奨学金はありがたいと受け取らせていただいております。これからも大切にに使わせていただきますのでよろしくお願いいたします。

大学3年(男子):

(前略) 今年度は第3学年に進級し、大学のキャンパスや住居の移動に伴い、新たな気持ちで新生活や勉学に取り組んでいます。自分の夢に一步でも近づけるよう、これからも実り多き大学生活と新たな挑戦を続けていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

大学生2人の父親:

このたびは、皆さまの奨学金をありがたいいただいております。去年は兄が大学2年、妹が高校3年の受験生でした。本人(妹)の希望もあり、受験し、見事に合格することができました。大学生2人といえば経済的にも本当に大変です。このたびのご厚意を無駄にしないよう、私たち家族一同、前に進んでいこうと思っております。本当にありがとうございます。

短大生(女子)の母親:

このたび、おかげさまをもちまして、震災発生当時中学3年だった娘も無事に短期大学を卒業することができました。震災当時、父親が行方不明となり、先の見えない状況でしたが、皆さまからのご厚意によりまして、不自由なく勉学に励むことができました。本当にありがとうございました。この春からは短大で習得した資格を生かし、仙台市内の保育所に就職し、社会人としての生活をスタートしました。これから、皆さまより頂いた心遣いを忘れず、将来少しでも何らかの形でお役に立てるような人間になってほしいと思っております。2年間、大変お世話になりました。誠にありがとうございました。

(資料4) プログラム開始から終了までの活動実績および予測

奨学生数は開始時の予測値に実績値を加味しました。

	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22	'23	'24	'25	'26	'27	'28	'29	'30	'31	'32	'33
留學生数	35人	80人	143人	161人	172人	176人	154人	136人	114人	107人	100人	100人	100人	81人	62人	49人	34人	32人	30人	28人	19人	10人	5人
	実績	実績	実績	実績	実績	実績	予測	予測	予測	予測	予測	予測	予測	予測	予測	予測	予測	予測	予測	予測	予測	予測	予測
奨学金	← 支給した奨学金						← 継続可能な残高						← 今後支援金を募らねばならない範囲										
	支給した金額						現在の支援金残高						今後支援金を募らねばならない金額										
	313,250,000 円						469,341,365 円						226,508,623 円										

※ 2016年6月30日時点 予測

※管理運営費は約24万円/年程度と小額のため、ここでは表記していません。

大学生2人の母親：

(前略) ローター希望の風奨学金の給付をいただき、息子2人が大変お世話になりました。一言御礼を申し上げたく、筆を執りました。私の長男は2013年3月まで給付を頂き、専門学校を卒業することができました。その後、自分の夢を追いながらのアルバイト生活や派遣社員を経て、東京の広告関係の会社に正社員として就職です。次男は2015年3月までの給付を頂きました。その間、1年間の海外留学も経験させていただき、同年9月に大学を卒業いたしました。その後、半年間のアルバイト生活を経て、愛知県の自動車関連の会社に就職です。

震災時は大きな不安や動揺を抱えた息子2人が無事社会人になることができたのも、ロータリーの皆さま方をはじめ、奨学金にご寄付をお寄せくださった方々のおかげと存じます。もっと早い時期に御礼を申し上げるべきところでしたが、2人が就職し、安堵できた今春を機にごあいさつすることとしました。(中略) 今後は、皆さまから頂いたご厚意を忘れることなく、仕事に精進し、社会に貢献していくよう、声をかけて見守っていきたくと考えております。最後になりましたが、皆さま方のご健勝とますますのご発展をお祈り申し上げます。

4. 支援金の実績および今後支援が必要な金額

2011年11月、正式にロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会が発足しましたが、この時の予測では、2033年3月末を目標(震災当時0歳であった遺児が大学を卒業するまで)とするには、総額で10億円を超える資金が必要だとされました。

プログラムが開始されてから、2016年6月30日までの間に、基金と支援金を合わせると7億8,300万円となり、この期間に3億1,325万円が奨学金として使用されております。経費として年間24万円程度を差し

引きますと、支援金は約4億6,900万円が残されております。奨学金としては、今後6年間は維持できる状態です。当初の目標金額に対しては、これまでの実績を加味しても、約2億2,650万円の不足となります(資料4)。

5. 新たなる感動を与えてくれる

ロータリー希望の風奨学金活動

プログラム発足以来ご支援をいただく地区の方々、また新たなご支援をいただいた地区(クラブ)の皆さまからは“目に見える支援”との評価をいただき、また、奨学生や家族の方から寄せられた感謝の言葉を目にする、この活動に身を置くものとして、今までにない新たな感動を覚えます。ご支援いただく皆さまには誌面を借り、改めて感謝申し上げます。また、なお一層のご支援をお願いいたします。

(文責：第2540地区2010-11年度ガバナー 地葉 新司)

連絡先

ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会

〒104-0031

東京都中央区京橋2-11-8 全医協連会館1階

国際ロータリー第2580地区ガバナー事務所内

Tel: 03-5250-2050 Fax: 03-5250-2050

Eメール: r.kibounokaze@wave.plala.or.jp

支援口座 (口座名義)

ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会

千葉銀行 銚子支店 普通 3549340